

診療科(講座)紹介

- 1) 臨床：院内の感染制御を担い、また各科の感染症診療をサポートする検査部の運営を行う
- 2) 研究：血液中細菌遺伝子同定検査に関する研究
滅菌に関する研究
- 3) 研修：初期研修および感染症専門医、臨床検査専門医を目指す後期研修

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
金光 敬二

昭和52年 帝京高等学校卒業
昭和63年 岩手医科大学卒業
臨床専門分野
1) 感染症学、感染制御学
研究分野
1) 感染症治療学、感染制御学



副部長(准教授)
今福 裕司

昭和61年 福島県立福島高等学校卒業
平成4年 福島県立医科大学卒業
福島県立医科大学にて研修
臨床専門分野
1) 臨床検査医学
研究分野
1) プロテオミクスを用いた疾患マーカー
同定解析

後期研修(専門医養成コース)プログラム

卒業臨床研修後(卒後2年)感染症・感染制御専門医あるいは臨床検査専門医の取得を目的とするコースである。

1年次(卒後3年)には感染症治療は勿論のこと、感染症の病因、病態生理、微生物の概要などを学びながら内科認定医の受験資格を取得できる。2年次から4年次(卒後4年～6年)には更なる感染症専門医療の研修を行い、感染症各論、感染症コンサルテーション、感染制御学などを学び、4年終了時には日本感染症学会専門医の受験資格を取得できる。後期研修4年間のうち希望により、海外研修でマラリア、デング熱、狂犬病などのトロピカルメディスンの研修も可能である。さらに、1～2年次に大学院に入学し専門医研修と同時に4年間の基礎的もしくは臨床的研究により学位取得も可能である。

臨床検査専門医については最初の2年間は日本臨床検査医学会による基本的研修目標ガイドラインに従い研修を行う。その後は臨床検査医学の中で興味ある領域を選択し、関連する研究を行いながら実績を増やす。前期学会員として5年以上になると受験資格が得られる。

大学院・留学について

分子病態医科学、分子機能学領域の感染制御・臨床検査医学として大学院の授業を行う。

①感染症診断学、②感染症治療学、③感染制御学、④臨床検査医学について学ぶ。

留学については感染症に関して上記海外研修も可能である。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

日本感染症学会専門医研修カリキュラムは次の通り(各項目詳細については省略)

1. 総論

- 1.1 微生物の概要
- 1.2 感染症の病因、病態生理
- 1.3 感染症診断
- 1.4 抗菌化学療法
- 1.5 化学療法以外の感染症治療・予防
- 1.6 感染症関連法規
- 1.7 院内感染
2. 各論
 - 2.1 臓器別にみた病態、診断、および治療
 - 2.2 各病原体別にみた病態、診断、治療

インфекションコントロールドクターの要件は次の通り

- 1) 感染対策委員またはそれに準ずる活動の証明があること
- 2) 院内感染対策講習会への参加実績

臨床検査専門医受験時に身につけていなければならない
基幹GIOs(一般教育目標)に関しては以下の通り

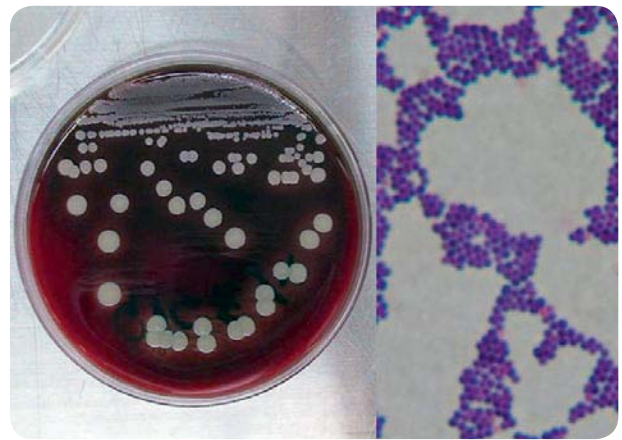
1. 各種臨床検査に関して臨床医のコンサルタントとして機能できる。
2. 臨床検査医学の診断・コメントが必要な各種検査コメントを発行できる。
3. 臨床検査医学(臨床病理学)の医学部卒前教育をはじめとし、その他の学際的分野においても、教育に寄与できる。
4. 臨床検査医学の実践を通じて、予防医学・健康管理の分野で貢献できる。
5. 臨床検査医学の分野での研究能力を育成し、将来的に研究指導が出来る。
6. 臨床検査部(室)ならびに臨床検査に関連した部署の適切な管理・運営の基本を身につける。
7. 行政関連ならびに日本医師会、各地区医師会などの精度管理事業の企画・実行に協力し、精度管理調査・監査報告書の作成ができ、さらに立入検査では学識経験者として監視指導が出来る。

● 指導医からのメッセージ

感染症専門医、感染制御専門医、臨床検査専門医ともまだまだ数が少なく、特に感染症、感染制御については社会のニーズも大きく、今後、ますます発展する分野です。それぞれ内科、外科等の枠を超えて、各科横断的に幅広く活動することが求められますので、それだけやりがいも大きいと言えます。



ミーティング



菌（培地）

顕微鏡



血液像検査



総合検体検査室